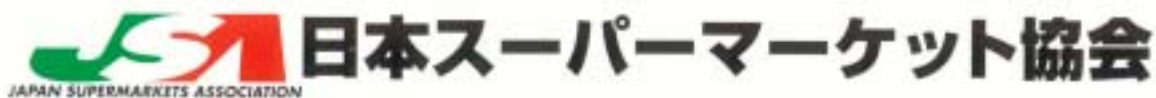


平成15年10月28日



## 平成15年9月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

## 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	32,254,185 万円	100.0%	100.0%(100.0%)	30,126,147 万円	95.8%( 96.7%)
食 料 品	26,012,699 万円	80.6%(80.2%)	99.8%(100.2%)	24,537,643 万円	96.1%( 96.8%)
農 産	3,934,546 万円	12.2%(12.1%)	95.3%( 95.8%)	3,730,498 万円	91.8%( 92.5%)
水 産	3,012,199 万円	9.3%( 9.4%)	95.4%( 97.6%)	2,852,754 万円	91.8%( 94.2%)
畜 産	2,904,219 万円	9.0%( 8.9%)	98.1%(101.7%)	2,735,821 万円	94.2%( 98.0%)
惣 菜	2,557,353 万円	7.9%( 8.1%)	102.4%(101.2%)	2,400,297 万円	98.1%( 97.4%)
日配食品	6,190,102 万円	19.2%(18.0%)	101.7%(100.9%)	5,831,785 万円	97.9%( 97.5%)
加工食品	7,414,280 万円	23.0%(23.7%)	102.4%(102.1%)	6,986,488 万円	99.0%( 99.1%)
生活関連	2,759,106 万円	8.6%( 8.8%)	98.2%( 98.1%)	2,576,621 万円	94.3%( 95.1%)
衣 料 品	1,621,483 万円	5.0%( 5.3%)	96.3%( 96.3%)	1,464,694 万円	91.0%( 94.5%)
そ の 他	1,860,897 万円	5.8%( 5.8%)	110.4%(103.4%)	1,547,189 万円	99.5%( 99.7%)

## 数 値

全店総売上高	32,254,185 万円	店 舗 数	3,234 店舗
総売場面積	5,507,334.1 m <sup>2</sup>	総従業員数	161,422 人

店舗平均月商	9,973.5 万円	平均客単価	1,833.1 円
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	5.9 万円( 6.4 万円)	平均店舗面積	1702.9 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	19.4 万円(21.2 万円)	パート比率(前月)	73.9%( 74.1%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 全体概況

- ・ 9月に入り、これまでとは一変して気温が上昇し、残暑が続いた。そのため夏物商材は動いたが、主力となる秋物商材が低迷。全体的には売上は伸びなかった
- ・ 売場を縮小していた夏物商材が中心となったため、対応が非常に難しかった。うまく対応したところは売上を伸ばした
- ・ 7月からの天候不順が果物に大きく影響を及ぼしている。秋の主力果実が軒並み品質が悪く売上につながらなかった
- ・ 地方において、同業、異業種の進出による価格競争が激化しており、売上、利益ともに非常に苦しくなっているとの声が聞かれる

## 商品動向

### 農産

- ・ 前半の野菜の相場高と、果物の品質不良が重なり、売上は非常に厳しい状態が続いている
- ・ 後半気温の下降に伴い、きのこ類などの煮物商材が本格的に動きはじめた
- ・ 小家族化の影響か、野菜の2分の1、4分の1カットの動きがよく、数量は売れたが売上にはつながらなかった

### 水産

- ・ 「サンマ」の相場が非常に安かった。そのため、数量は大きく伸びたが、単価が下がり売上は伸びなかった
- ・ マグロなどの刺身の不調も響き、単価が下がっている。部門全体でも数量増、売上減の状況となっている

### 畜産

- ・ 前半の残暑の影響により、焼肉商材が好調に推移。逆にこれから主力となるうす切りなどの煮物商材が出遅れる

## 惣菜

- ・ 残暑の影響により、揚げ物関連は低調。逆に弁当、特に、カキご飯、マツタケご飯などの季節のメニューは好調に推移している
- ・ 中華、和惣菜などのバイキングが各店に浸透してきている。実施しているところは全般的に好調な売れ行きとなっている

## 日配・加工食品

- ・ 日配食品では、残暑により先月まで好調に推移していたおでん商材などの練製品が売上を落とした。逆にアイスなどの夏物商材が好調に推移した
- ・ 野菜の相場高の影響か、先月に続き浅漬けなどの漬物が好調に推移
- ・ 敬老の日、お彼岸などの品揃え増加が全体を引き上げ、和菓子が全般的に昨年を上回る売上となる
- ・ 加工食品では気温の影響により、発泡酒、ビールなどのアルコール類、飲料が好調に推移。反面先月まで好調だった菓子類が売上を落とした
- ・ ココアは依然として好調な売上。特に新製品の「黒豆ココア」がよく動いている

## その他

### ～秋物商材の動向について

- ・ 冷夏の影響により、動き始めが非常に早かった。しかし、特に果物において品質が悪く、売上は伸びなかった
- ・ マツタケは昨年の残留農薬の影響から昨比は上回っているが、一昨年の水準から見ると低い売上となっている
- ・ おでん商材などの煮物商材は好調に売れていたが、9月の残暑により下降する。ここまでのトータルで見るとほぼ昨年並みの売れ行きとなっている
- ・ サンマに代表されるように全般的に単価が下落傾向となっている。しかし惣菜の季節商材に関しては好調に推移している

～「お彼岸」の動向について

- ・ 冷夏の影響により、菊など花きの相場が上昇した。その結果価格も上がり、売上はなんとか確保するも利益には結びつかなかった
- ・ おはぎはSKUの増加、展開の強化などが奏功し好調な売れ行き。セット物の動きもよかった
- ・ 台風の接近の影響により、雨が多く、行楽需要は見込めない状況であった。売れる商品もベーシックなものが多く、単価も低かった
- ・ 際物商品の動向は堅調なことから需要自体は縮小していないと思われる。ただ、必要なもの以外は買わない傾向が強くなっており、数量、単価の減少につながっている

～新米の動向について

- ・ 冷夏による不作と入荷遅れにより、銘柄米中心に20～50%価格が高騰。目に見えて高くなっているため手が出づらくなっている
- ・ 古米と新米の価格差が非常に大きいため、新米の動向は悪い。逆に古米やブレンド米は大きく売上を伸ばしている
- ・ これから出回ってくる東北地方が特に不作となっているため、今後はブレンド米の販売強化も必要となってくる